

日本音楽学会第67回全国大会プログラム(修正版)

大会第一日 11月12日(土) ※開催時間と会場は変更される場合があります。

9:00 受付開始(場所 1号館 図書館・学術棟 3階フロア)

9:30~9:35	開会の辞 (3階133教室)				
	Session A: (4階141教室)	Session B: (4階142教室)	Session C: (3階131教室)	Session D: (3階132教室)	Session E: (3階133教室)
	司会:伊東辰彦	司会:福中冬子	司会:小沢優子	司会:沼野雄司	司会:高橋隆二
9:40~10:20	A-1 秋山良都 ヨハネス・クローネにおける「ボザウ ネンコア」の理念 ——福音主義と愛国主義のための 金管演奏——	B-1 中巻寛子 カルダーラのオペラ《不変の愛は 策略に打ち勝つ》(2) ——1711年改訂稿について——	C-1 岡野 宏 18世紀後半におけるクレッシェンド 体験の報告についての一考察	D-1 長井進之介 F. リストの歌曲における「詩的理念」 の表出と「芸術の僧侶」としての創作	E-1 大角欣矢 明治後期の新聞・雑誌等に見る「国 楽」を巡る議論 ——近代日本の「国楽」に関する包 括的歴史研究へ向けた予備的報告 ——
10:25~11:05	A-2 光永 誠 中世の鍵盤のメディア論的考察	B-2 高松佑介 フランツ・シューベルトの「頂点形 成モデル」にみられる異種統合的 特徴	C-2 大城了子 19世紀前半の変奏曲様式の変遷 ——鍵盤楽曲を事例として——	D-2 伊藤 綾 マックス・レーガーの歌曲における諧 謔性	パネル1 音楽理論と演奏実践における諸問 題について ——17世紀初頭までの音楽を中心 に——
11:10~11:50	A-3 佐藤康太 ゲオルク・ミヒャエル・テレマンによる 受難曲上演とその史料	B-3 堀 朋平 憧憬と諦念 ——転機としての《フィエラプス》 ——	C-3 岡田安樹浩 ベートーヴェンの総譜配列法	D-3 内藤真帆 グスタフ・マーラー《交響曲第4番》の 自筆総譜成立以後における修正	コーディネーター: 宮崎晴代 パネリスト: 辻 康介 福島康晴 菅沼起一
11:55~12:35	A-4 長岡 英 ジョヴァンニ・アニムッチャのミサ曲 集第1巻 ——音楽と受容——	B-4 大野はな恵 歌唱ヴィブラートにおけるパラダイ ムシフト ——シーショアの研究を中心に——	C-4 山名敏之・筒井はる香 フォルテピアノの打弦素材における 「総モデレイター化」研究	D-4 佐野旭司 シェーンベルクとブラームス ——「発展的変奏」をめぐって——	
12:35~13:40	昼休み				
	Session F: (4階141教室)	Session G: (4階142教室)	Session H: (3階131教室)	Session I: (3階132教室)	パネル2: (3階133教室)
	司会:中村 仁	司会:白石美雪	司会:木村直弘	司会:平野 昭	
13:40~14:20	F-1 柴田康太郎 大正期～昭和初期の東京における 音楽会場としての映画館 ——映画伴奏と休憩音楽の連続性 ——	G-1 川端美都子 20世紀初期タンゴ録音の商業的・ 民族誌的価値と「保存」に関わる 諸問題	H-1 小林幸子 ワーグナーの初期劇作品における 創作プロセスとアクチュアリティ	I-1 上山典子 リストのピアノ・レッスンにおける編曲 の役割	スポーツと音楽 コーディネーター: 明木茂夫 パネリスト: 沼野雄司 佐藤さくら 大庭 雅 (フィギュアスケー ト)
14:25~15:05	F-2 白井史人 無声映画伴奏譜「ヒラノ・コレクショ ン」の草稿譜研究 ——筆跡調査からみる1920年代の 無声映画館楽士による楽譜使用の 実態——	G-2 奥村京子 リゲティの《アルティクレーション》 における架空言語コミュニケーション ン	H-2 齊藤紀子 ヴォーリズの住宅設計観にみるピ アノ ——講演記録『吾家の設計』及び 『吾家の設備』をもとに——	I-2 樋口騰迪 バリ・コミュニケーション下のシャンソ ン ——その音楽的特徴と社会的機能 ——	
15:10~15:50	F-3 肥山紗智子 戦後日本のセミドキュメンタリー 映画の音楽 ——『裸の町』と『野良犬』におけ る言説と「リアリティ」の演出を中心 に——	G-3 加藤幸一 音楽とイデオロギー ——19世紀アメリカの音楽評論の 検証を基に——	H-3 白石悠里子 フォーレのピアノ五重奏曲第2番 Op. 115の形式分析 ——ダイナミクスに着目して——	I-3 水野みか子 ビュール・シェフェールの音楽的演 劇とラジオフォニック	
16:00~16:45	同時開催イベント 「名古屋甚句の世界 ——解説と実演——」 (1号館3階 清明ホール)				
16:50~18:20	総会 (1号館3階 清明ホール)				
18:30~20:30	懇親会 (2号館 アレーナ211) 会場にて中京大学所蔵スタインウェイ1875年製スクエアピアノを展示中です。				

※ 大会会場となっている図書館・学術棟(1号館)は全面禁煙です。喫煙コーナーは向かいの2号館(懇親会会場)北側裏手にありますので、ご利用ください。

大会第二日 11月13日(日) ※開催時間と会場は変更される場合があります。

9:00 受付開始 (場所 1号館 図書館・学術棟 3階)

	Session J: (4階141教室)	Session K: (4階142教室)	Session L: (3階131教室)	Session M: (3階132教室)	パネル3: (3階133教室)
	司会:小塩さとみ	司会:前川陽郁	司会:友利 修	司会:塚原康子	
9:40~10:20	J-1 栗山新也 「里帰り」三線楽器の移動と積み重なる価値	K-1 新林一雄 フベルトゥスブルクにおけるドレスデン宮廷楽団 —— J. J. クヴァンツによる編成論との比較を中心に——	L-1 船木理悠 エルネスト・アンセルメの音楽美学におけるテンポ論	M-1 仲辻真帆 設置当初の東京音楽学校本科作曲部の様相 ——学校史料と学生の手稿史料から——	礼楽思想の諸相  コーディネーター: 武内恵美子 パネリスト: 小島康敬 小林龍彦 平木 實 渡辺信一郎
10:25~11:05	J-2 丹羽誠志郎 奈良県吉野郡十津川村の《鴨緑江節》について	K-2 ボッホマン未奈理 ヴェネツィア・ビエンナーレ国際現代音楽祭に見る独伊文化交流の実態	L-2 陣内みゆき オリヴィエ・メシアン《アッシジの聖フランチェスコ》における多層的な時間的事象の投影としてのモザイク構造	M-2 橋本久美子 東京音楽学校における学徒出陣の記録について ——京都帝国大学の事例とあわせて——	
11:10~11:50	J-3 丹羽幸江 吉田文庫の大祓祝詞の楽譜	K-3 和田ちはる 音楽の「愚かさ」とそれに抗するイスラエルの試み	L-3 村井幸輝郎 旧約聖書詩編137を発端とする音楽の禁止 —— Ch=V. アルカンはいかにそれを回避したのか? ——	M-3 畑山千恵子 久野久子と兼常清佐、篤子夫妻 ——著作、書簡、日記から読み解く久野と兼常夫妻——	

11:55~13:00 昼食

	Session N: (4階141教室)	Session O: (4階142教室)	Session P: (3階131教室)	Session Q: (3階132教室)	Session R: (3階133教室)
	司会:矢向正人	司会:檜崎洋子	司会:武石みどり	司会:井上さつき	司会:柿沼敏江
13:00~13:40	N-1 太田 郁 山田耕筰の海外演奏旅行における組曲《あやめ》の選曲意図 ——1933年のソヴェトを中心に——	O-1 伊藤友計 和声用語の精査からラモの音楽理論を再考する	P-1 池原 舞 ストラヴィンスキーにとってのジャズ ——記譜と演奏実践——	Q-1 海老原優里 ドビュッシーの演奏美学 ——ドビュッシーが校訂したショパン全集の指使いから——	R-1 Heike HOFFER Intertextual and Paratextual Musical References in the Anime <i>The Melancholy of Suzumiya Haruhi</i>
13:45~14:25	N-2 今野哲也 山田耕筰の《AIYANの歌》における「導7の和音」の技法 ——「和音」と「偶成」の観点から——	O-2 釘宮貴子 ゲオルク・カベレンの和声理論 ——日本旋律の編曲への応用——	P-2 一柳富美子 演奏会及び劇場上演データに見る19世紀ロシアの音楽界	Q-2 上田泰史 パリ国立音楽院ピアノ科教授 P.-J.-G. ヴィメルマン(1785~1853)の音楽・教育活動と音楽蔵書	R-2 萩山陽子 ヘンデルの英語作品の歌詞の扱い ——発音変化の視点から——
14:30~15:10	N-3 河内春香 《日本の太鼓 鹿踊り》 ——江口隆哉と伊富部昭のモダンダンス作品がめざしたもの——	O-3 原 壘 武満徹《ピアノ・ディスタンス》再考 ——孤立した瞬間の背後にある関連性について——	P-3 山本明尚 ソ連におけるA. N. スクリャービンの受容の変遷	Q-3 中西充弥 サン=サーンスと日本 ——未刊の書簡資料に見る日本に対する関心——	R-3 白石知雄 祝祭としての朗読 ——大栗裕の朗読とマンドリン・オーケストラのための音楽物語のジャンル特性——

15:10~15:30 休憩

	Session S: (4階141教室)	Session T: (4階142教室)	Session U: (3階131教室)	Session V: (3階132教室)	
	司会:広瀬大介	司会:水野みか子	司会:井口淳子	司会:安原雅之	
15:30~16:10	S-1 石井 明 ヨハン・ヤコブ・フローベルガー研究のこれまでと今後 ——フローベルガー生誕400年を記念して——	T-1 中村 仁 『実用音楽 Gebrauchsmusik』再考 ——ヒンデミットとハイデガーおよびミュージッキング——	U-1 吉井千周・岩瀬大輔 共同体としての吹奏楽団 ——海外における邦人吹奏楽団活動を事例として——	V-1 金子亜美 新大陸での宣教活動における音楽コミュニケーションの記号論	
16:15~16:55	S-2 中村一輝 《平均律クラヴィアー曲集 第1巻》のレトリックとメタファー ——ドイツ・バロック時代特有の音楽理論に基づく分析と解釈——	T-2 小寺未知留 レナード・マイヤーの『音楽における情動と意味』の「カノン化」の過程 ——音楽理論と音楽心理学との関係の変遷についての一考察——	U-2 川崎瑞穂 民俗舞楽にみる神楽囃子「テケットン」の過渡的形態 ——静岡県周智郡森町一宮・小国神社の「十二段舞楽」を事例として——	V-2 深堀彩香 イエズス会の東洋宣教における音楽の使用法 ——16世紀のゴアと日本を例に——	
17:00~17:20	閉会の辞 (3階133教室)				